

「第 22 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 6 年 1 月 23 日（火）14:00～16:00

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

1 出席者

1	岡 浩一朗（学識経験者）	12	高橋 美由紀（生涯学習スポーツ課長）
2	小倉 利彦（区体育協会）	13	神崎 章（新宿未来創造財団等担当課長）
3	奈良 和子（区スポーツ推進委員協議会）	14	渡辺 隆介（障害者福祉課長）
4	金子 和子（区レクリエーション協会）	15	袴田 雅夫（地域包括ケア推進課長）
5	田中 稔（区町会連合会）	16	徳永 創（子ども家庭課長）
6	藤原 千里（区障害者団体連絡協議会）	17	向 隆志（健康政策課長）
7	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	18	小菅 健嗣（みどり公園課長）
8	武内 隆則（区小学校 PTA 連合会）	19	齊藤 正之（教育調整課長）
9	石原 留理（区中学校 PTA 協議会）	20	林 政至（教育支援課教育活動支援係長）
10	下村 扶美子（公募委員）		
11	西谷 毅（スポーツ関連事業者）		

欠席者 5 名

今泉 清隆（区体育協会）※代理出席あり

橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）※代理出席あり

藤塚 利男（区青少年育成委員会）

南 滋文（公募委員）

加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）

徳永 創（子ども家庭課長）※代理出席あり

机上配付資料

資料 1 新宿区スポーツ環境に関する調査報告書（案）

資料 2 新宿区スポーツ環境調査のまとめ

資料 3 新宿区スポーツ環境整備方針 施策体系（案）について

資料 4 新宿区スポーツ環境整備方針 構成変更（案）について

資料 5 新宿区スポーツ環境整備方針 改定スケジュール

資料 6 令和 5 年度 部活動運営支援事業について（教育支援課）

チラシ パラスポーツ・レクリエーションひろば（レクリエーション協会）

チラシ ブラインドサッカー体験会（生涯学習スポーツ課）

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会 <次第1>

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ <次第2>

本日はお忙しい中、スポーツ環境会議にご出席いただき、感謝申し上げます。一昨日、新宿区サッカー協会の代表チームであるクリアソン新宿による、2024年シーズン新体制発表会があった。2023シーズンでは、J3クラブライセンスの交付まで進んだが、昇格まではいかなかった。2024シーズンについては、J3への昇格を目指して、3月10日初戦となる。ぜひ応援をお願いしたい。

次に、今週末1月28日は新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンが開催される。ボランティアとしてご参加される方には、ご協力のほどお願い申し上げます。

本日は、昨年9月から10月にかけて実施したスポーツ環境調査のご報告と、来年度改定するスポーツ環境整備方針の基本施策についてご説明する。皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。本日はよろしく願いいたします。

(3) 「スポーツ環境調査の結果について」 <次第3>

生涯学習スポーツ課より資料説明。資料1・資料2

【質疑応答】

学識経験者

調査の結果は理解できた。東京都や国の数値との比較をしていたが、例えば、経年変化として、前回調査から大きく変化が現れたという特徴や、あるいは調査結果として特筆すべきポイントなどがあれば、教えてほしい。

生涯学習スポーツ課長

今回の調査ということではないが、スポーツ実施率については、国と都が数値を出している。国の数値は52パーセント、東京都は66パーセントとかなり高い数字になっている。新宿区では、今までスポーツ実施率について、国や都と同じ指標で調査をしておらず、今回初めて国と都と同じ基準で調査を実施した。先ほど調査結果で説明したとおり、都よりは低く、国よりは高い結果となった。調査結果については、クロス集計もこれから行うため、細かな分析は今後進めたい。

学識経験者

今回の結果について良かったと思った点は、スポーツをすることに対して、「興味関心がない人」が前回よりも7ポイントも減ったということ。また、スポーツを定期的に行っていると回答した人も多くなっているということ。これについて、要因はなかなか伺い知ることはできないが、新宿区民の方々が少しずつ、スポーツに興味関心を持つ人が増殖して推移していることは、良い結果だったと思う。一方で

その前のページに、「誰とスポーツをやるか」という質問については、前回調査時より、「一人でやる」という回答が増えた。10年前と比較し、時代が大きく変化してきているということの表れなのかもしれない。散歩やウォーキングなどは一人でやることが多いと思うが、今後、スポーツ文化を醸成していくことを考えると、せつかくスポーツという良いコンテンツがあるので、やはり誰かとスポーツをすることにより、ソーシャルキャピタルに繋がっていくと良いと思う。調査結果では「家族や友人の誘い」がスポーツを始めるきっかけになるというデータもあったので、この調査結果を生かして、そのあたりに遡及できるような取組が考えられていければ良いと考える。

（４）「新宿区のスポーツ環境整備方針改定版の構成及び施策の体系について」 <次第４>

生涯学習スポーツ課により説明。 資料３・資料４

【質疑応答】

区体育協会

調査項目に基づいて、パラスポーツの振興と理解促進や、スポーツによるにぎわい・交流の創出など、新規施策とするのは非常に良いことだと思う。ただ、現段階ではまだまとまりきれてないのかもしれないが、今後、誰がどのような形で発信をしていくのか、具体的なものを提示していただきたい。また、基本施策１が全く変わってない。この何年間かの取組で、どの程度進んでいるのか。どの部分が不十分だったのか。今後どういった取組をしていくのかということ、具体的に今後示していただきたいと思う。

生涯学習スポーツ課長

実際に現行の施策からどのくらい進んだのかという検証の部分についても、並行して整理をしているところである。前回の方針策定から長い年月が経過し、そのなかでオリンピック・パラリンピックの開催もあったこともあり、変更している部分もある。一つ一つの施策については、大きく変わった部分と、新たにやらなければならない部分と、継続してやらなければならない部分があると考えてるので、具体的な検証を行い、新たな施策という形でお示ししていきたい。例えば、パラスポーツの振興と理解促進というところでは、今年度はパラスポーツ団体と連携して、ゴールボール、車椅子ハンドボールの体験会を新たに開始した。こういった事業の拡充なども考えているので、具体的なお話ができる段階になり次第、ご紹介していきたいと考えている。

区体育協会

例えば、総合運動上の整備検討は、もう何十年も前から出ており、いつ具体的な話が出るのだろうというものもある。そのため、こういった提案があったができなかったとか、そういった内容をいただけるとありがたい。これは全て新宿区だけでできる取組ではないと思うので、会議に出席している各団体の皆さんも取組みに向けて協力していくので、早め早めに具体的な内容を示していただき、各団体からの意見を吸い取っていただいて、施策に反映していただけたらと思う。

区高齢者クラブ連合会

高齢者がスポーツを楽しめる場や機会の創出とあるが、残念ながら高齢者は非常に活動範囲が狭い。そのため、誰でもスポーツを楽しめるような環境をどうやったら広げることができるのか。今の周知方法は町会の掲示板しかなく、機会を作ったとしても広めようがない。バス旅行などでも、場を作ってももらえないと一人では何もできないという方もいる。それに参加しているのが一番安全で楽しめる。このような状況で、前回グラウンドゴルフと輪投げをやった際は、輪投げだけで300人ぐらい集まったので、やりたい人はいるのだと思う。ただ、どのように情報を出して、どのようにして高齢者を引き込むかが私どもの一番の大きな課題。現状として、グラウンドゴルフをやる人はグラウンドゴルフしかやらない。輪投げをやる人は輪投げしかやらない。そのため、全体的に輪投げもグラウンドもボッチャも楽しめるように高齢者にどうやって広めるか。これができないと会員がどんどん減ってしまうため、悩んでいるところである。

区レクリエーション協会

私も同様に、良い事業があっても、どうやって周知できるかというのが一番の課題だと思っている。この課題が少しでも前進できればと思う。

区障害者団体連絡協議会

新規で基本施策3として、障害者スポーツに特化した項目を設けていただいたのは、とてもありがたいことだと思っている。一方で感じたのは、「パラスポーツ」と名を打たれているが、どうしても「パラスポーツ」というと一般にパラリンピックのイメージがあり、特に、車いすバスケットや車いすラグビーなど、個人として、その競技をやりたい人、できる人がやっているようなスポーツを指しているイメージがある。正直なところ、特別支援学校に通う子どもたちは、体育の授業で車いすバスケットやラグビー、ブラインドサッカーも、ゴールボールもやらない。パラスポーツという括りになってないスポーツもたくさんあるので、そういった施策の中に、小さな取組でも拾い上げられるような形で作っていただきたい。特別支援学校の子どもたちが学校卒業した後でも、どんな障害があっても、気軽にスポーツをやめずに継続して行くことができる環境が作れるような施策にさせていただけたらと思う。

下村委員

基本施策1に、施設機能の充実とあるが、現在、新宿区の屋外運動施設で屋根付きの施設がない。7月8月9月の暑さは尋常ではなく、ゲートボールされている高齢者の方と話したことがあるが、ものすごく暑すぎて、朝の9時ぐらいまでか、夜しかできない。また、夜は暗くて見えなくてスポーツができないという話を伺ったこともある。実際、私も屋外でモルックをやっているが、屋外でスポーツできる場所があっても、今後この夏の暑さが続くと、夏に屋外でスポーツをしたい方のニーズを満たすのはすごく難しいと感じた。雪深い地方には、ゲートボール場自体に屋根があって、雪がある季節でもできる施設もあるようである。今後の夏のスポーツを長い目で見た時に、何か夏でも屋外スポーツをできる環境整備に対して、現状話題があればお聞きしたい。

生涯学習スポーツ課長

現在実施している、暑さ対策としては、暑さ指数を図る計測器を各屋外施設に設置し、指定管理者が計測し、一定基準になれば、外での運動はやめるように注意喚起している。あとはミストを設置している施設もある。ただし、屋根を付けてしまうと、高さの制限ができてしまい、使用できる競技が限定されてしまうため、屋根は難しいかと思っている。

下村委員

ゲートボール場のあるいきいき広場など、試しにどこか一か所でもいいので、今後の暑さ対策として考えていただきたい。せっかく良い施設があっても、夏は暑いので一定基準の温度を超えたら使えなくなってしまふのでは、夏にスポーツができる機会が狭められることになってしまう。これからも東京はとて暑い夏になっていく中で、暑さ対策できるスポーツ環境整備についても方向性として考えていただけたら良いと思っている。

生涯学習スポーツ課長

他自治体の暑さ対策への施策や、こういった施設の設備があるのかについては、研究していきたいと思う。

区中学校 PTA 協議会

スポーツ意識調査で、運動やスポーツへの取組についての質問で、「特に運動やスポーツに関心がない」という人が、前回の調査から若干ポイントが上がっていた。また、岡委員の話にもあったが、個人でスポーツを行いたいという人の割合が増えたという結果がある。今中学生の子どもたちも、体を動かすよりは、ゲームの方に向かっていく子たちが多い。家でオンラインゲームで繋がれるので、特に体を動かす必要がない状況が増えている。一方で、個人での運動が増えているというところでは、近隣の公園で子どもがバスケットゴールを使ったりすることがあるが、例えば宮田橋公園は下のハード地面が凸凹していたり、下村委員からもあったとおり、暑い時は炎天下で使いにくい状況がある。日常的に体を動かすために、公園や今ある施設をきちんと使える状態に整備をしていただきたい。以前の会議で伝えた個所もまだ改善がされていないところもある。せっかく良いトレーニングの器具など公園に増えてきているので、例えばゲームの合間とかでも気分転換に近くの公園でトレーニングをやってみようと思うような、18歳以上の区民の方でも気軽に体を動かせるような環境づくりを取り組んでいただきたいと思う。

区スポーツ推進委員協議会

「誰もがスポーツを楽しめる機会の充実」とあるが、どのようなスポーツを、誰でも楽しめるスポーツと考えているか。スポーツをしていない人に、始めるきっかけを作るためには、今、実際にスポーツをやっている人たちがどのようなきっかけでスポーツを楽しむことになったのかを聞き入れた上で、どんなスポーツを広めるのかという検討を進めた方が良いと思う。また、パラスポーツについて、金子委員と一緒に、「パラスポーツ・レクリエーションひろば」というものを行っているが、これは一つの会場でいろんなスポーツができるイベントである。ポッチャ、ラダーゲッター、体操、クラフトなど。1つ

の種目しかできないと、例えば、ボッチャしかないなら私は行かないとか、それは苦手だからできないとなってしまふ。でも、一つの体育館の中で、ボッチャも輪投げもクラフトもある。体を動かすのが嫌だったらダンスを見ているだけでも良い。そういった大きな会場ではなくても、体育館の中でブースを分けて、いろんな種目をやりながらきっかけ作りをしてあげるのも良いのではないかと思った。

生涯学習スポーツ課長

どのようなスポーツを「誰もが気軽にできるスポーツ」としているかというご質問については、スポーツ環境整備方針の中では、いわゆる競技スポーツだけではなく、階段を上がるなど、気軽に体を動かすことも含めて、スポーツと考えている。今ご意見でいただいたような、いわゆるレクリエーションと言われているものや、ニュースポーツと言われているものも、すべて気軽にできるスポーツと考えている。また、デジタル技術というところでは、今回の調査でも、コロナの間、オンラインでのスポーツをした方、特に女性が多かった。外へ出てコミュニケーションをとりながらのスポーツも良いと思うが、一方で体を気軽に動かすという意味では、移動もなく、自宅でもできるのは、一つのスポーツの形だと考えている。いわゆる健康づくりや、遊びというような視点、またデジタル技術等々も活用し、スポーツの場を支えていけたらと思っている。また、一つの会場でいくつもの競技が楽しめるというのは、本当にいいアイデアであると思うので、その中で自分に合うものでそして楽しめるものを探してやっていただければと思う。

スポーツをするきっかけとしては、この調査の結果にもあるが、「友人や家族の誘い」があればという回答が大きくあった。先ほど高齢者の方は行動範囲が狭いと言う意見もあったが、新宿区では、9つの地域で地域スポーツ文化協議会がある。主に学校を使用してスポーツや文化活動を地域の方主体でやっていただいているが、一つの競技だけで一つのグループができてしまうのではなく、団体同士が交流することで情報も広く行き渡るようにできればと思う。それは今現在できていない部分もあるため、どういう風に施策の中で仕掛けていくかを今後考えていかなければいけないと考えている。

区中学校 PTA 協議会

調査のまとめ5「運動やスポーツの指導について」で、「求める指導者」としては「運動やスポーツの楽しみ方や興味関心が沸くような指導ができる人」が子育て世代保護者では8割となっているが、私自身も同じような意見を持っている。この結果について、今後どのようなことを考えて進めていくかお聞きしたい。

生涯学習スポーツ課長

今回調査において、子どもの調査結果の中でも、特に保護者の方がスポーツの指導者に対するところで、楽しみや興味関心を持てる指導を非常に強く求められていると感じた。具体的にどのように施策の中に反映するかということについては、これから検討していかなければいけない部分ではあるが、指導者に向けた研修の実施であるとか、指導者同士の情報共有などを通じて、指導者の資質向上をしていく必要があるのかと思う。また、区の体育協会の各競技団体の方に、色々働き掛けをさせていただき、指導者の資質向上に向けた取組を一緒に考えていきたいと思っている。

生涯学習スポーツ課長

先ほど障害者スポーツのところ、特別支援学校を卒業した子どもたちへの運動の機会というご意見があったが、来年度計画している事業の中で、障害のある方が、気軽に参加できる運動の場の提供をしたいと考えている。具体的には、スポーツ施設を使って、ダンスや体操など体を動かせるものを予定している。就労支援施設や、様々な施設に通っている方たちがいらっしゃると思うが、そういった施設にも働きかけをして、会場に来ていただく。また、来られない方はオンライン配信で一緒に体を動かせるような取組ができればと計画している。

区障害者団体連絡協議会

ありがとうございます。特に障害の重い子どもたちにとっては、競技性のないスポーツも十分に必要になってくるため、ぜひ回数を重ねていただけたらと思う。

学識経験者

各委員からいろんな貴重な意見が出たので、それは十分反映させていただきたい。それと、この施策を立てるにあたり、国や都、他自治体等の施策や取組を把握されていると思うが、新宿区ならではの強みを生かした、あるいはこれぞ新宿のスポーツ振興の取組なのだというものは何かあるか。

生涯学習スポーツ課長

これぞ新宿というところでは多様性が言える。新宿には多国籍な住民がおり、例えばサッカー協会が実施しているグローバルカップというフットサルの大会がある。五か国の子どもたちが集まって対戦し、フットサルを一緒に楽しんでいる。また国別チームだけではなく、いろいろな国を入れ交ぜたチームを作って対戦もする。そういった交流ができるのは、やはり新宿区の多様性ならではと思っている。また多様性というところで、新宿区には障害者の施設も非常に多くある。今回、パラスポーツへの取組に力を入れていくことで、共生社会の実現を目指していくということが、最終的にはこの「スポーツの力で新宿のまちを元気に！」というスローガンに繋がっていくと考えている。

学識経験者

やはりスポーツを振興していく上で、どの自治体でもやるべきこと、やらなければいけないとされる基盤となる部分と、その地域や区ならではの取組とがあると思っている。当然、その基盤となる部分は施策として出されていくと思うが、ぜひその新宿ならではの部分をもっと強調しても良いと思う。例えば国の調査を見ても、運動・スポーツする人というのは激増も激減もするわけでもなく横ばいである。これから人口構造が少しずつ変わっていく中で、これが劇的に増えていくとは思っておらず、少なくとも減らないように維持は絶対しなければいけない。そのためのベースになる取り組みだと思っている。一方で、日常の生活活動で、例えば歩数について見ると、スポーツをやる人が減っても増えてもない中で、歩数は劇的に減っているというのが、今の日本人の実状だと思う。少なくとも、時間を作ってスポーツをやる人、運動を自分の生きがいとしてやる人、いろんな形があると思うが、その人たちの基盤を支えていくような、絶対に減らさないというような、そして何か新宿ならではのものがあると良いと考える。

また基本施策が5つあるが、それぞれがバラバラに進めるのではなく、お互いが連携し合ったものとして、上手に施策として出すときに表現されるといいかなという気持ちがある。

最後にもう一つ、基本施策5に「新宿にゆかりのあるアスリートやチームとの連携強化」とあるが、企業もたくさんあると思う。そういう人たちの力をどんどん借りて、オール新宿でやると良いのではないか。私自身、東京都のスポーツ推進企業の選定に関わっているが、たくさん新宿区の企業がある。日常的に運動習慣を作ったり、体を動かす機会を作る取組をやっているという企業もあれば、アスリートの支援や、パラスポーツの支援をしている企業など、自分の会社はスポーツを支援していますという企業はたくさんある。アスリートとチームだけに限らず、このようなたくさんの方の力を取り込んで行けばさらに良いのではないかと思う。

（5）スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）〈次第5〉

ア 各団体・委員からの報告

区体育協会

新宿区体育協会には、現在、各競技団体が40団体近く加盟しており、各団体は春の大会に向け活動を始めている時期である。体育協会としては、加盟団体数を増やしたい意向があるが、加盟するメリットを聞かれることが多い。団体としてのメリットも大切な部分ではあるが、やはり私たちは新宿区民の方にスポーツを楽しんでいただく、また健康づくりをしていただくお手伝いをする役割だと思っている。先ほど岡委員がおっしゃられたように、企業の方も興味を示してくださっているので、いろいろなところから支援をいただきながら、活動をやっていかなければならないと思っている。

区スポーツ推進委員協議会

昨年10月から、各地区でコミュニティスポーツ大会を行った。この約4年間はコロナの影響で中止や種目を絞ってやる時期もあったが、今回は、ユニカール、ボッチャ、輪投げ、ビーチボールバレーと4種目全部やることができた。12月に各地区から予選で上がってきたチームが集まり、中央大会をコズミックスポーツセンターで開催した。コロナでスポーツを制限されてきた皆さんが、やっとスポーツができるということで、皆さん率先して参加されていた。やはり体を動かすことは元気になると、改めて感じられた大会になった。

区町会連合会

コミュニティスポーツ大会では、町会としても、コロナ前よりも参加人数が増え、非常に和気あいあいながらも、勝負にこだわったいい試合が続いたと思う。中央大会でも、久しぶりに他の地区の方との交流も復活し、大変賑やかに楽しくでき、町会連合会としても大変ありがたい大会になったと思っている。また1月28日に行われる新宿シティハーフマラソンでは、町会連合会としては、交通規制のお知らせや、ボランティア参加の呼びかけなどを行っている。各町会からボランティアで出ていただき、いろんな仕事をしていただくことで、マラソン、あるいはスポーツに興味を持っていただければと思っている。クリアソン新宿については、町会連合会としても協力をしていくことになっているので、去年は残念であったが、2024シーズンはJ3に昇格できるように、縁の下の力持ちとして、町会連合会も応援したいと思っている。

区高齢者クラブ連合会

高齢者クラブの一番の問題は、会長が年を取ってクラブが潰れることである。会長に、スポーツが得意な会長が出れば、積極的にスポーツに参加するし、福祉大会に得意な会長が出ると、福祉大会に力が入るというように、範囲がとにかく狭く、全体的にものを考えることは難しい状況である。現在、各会長が新規会員募集に力を入れており、私はスポーツ部長であるので、スポーツにしても何か新しいものを始められないかという議題は現実に登る。ボッチャはどうかという意見も出るが、実際に広く取り組めるところまではできていない。そのため、港区と千代田区と新宿区で今度2月6日にボッチャ大会があるが、残念ながら新宿区はそのような状況で、参加はするものの、スムーズな参加がなかなかできないという現状である。高齢者の方々は活動範囲が狭いので、どこで何をやったら皆さんが参加してくれるのか悩んでいる。また、先ほど夏の暑さ環境という話が出たが、高齢者クラブでも現実的に屋外でやるスポーツは4月、5月、10月、12月というように、暑い寒いを避けて催しを企画しないとイケないというのが現状である。

区障害者団体連絡協議会

障害者団体もクリアソン新宿に大きくサポートをいただいております、今までサッカー観戦が難しかった子どもたちや利用者も、積極的に応援をしているような形を取れるようになってきたため、来年度も引き続き応援をしていきたいと思っている。また、2025年にデフリンピックが東京都で開催される。新宿区の聴覚障害者たちも積極的に関わっているため、また詳細が決まったら、この場でご報告をさせていただきます。

スポーツ関連事業者

現在スポーツ施設は、学校の統廃合や施設の老朽化に伴い減少していると言われていたが、新宿スポーツセンターでは、現状、来館者数は平成29年、30年のピーク時に近く、増加傾向にある。新宿区の施設の傾向としては、インバウンドの旅行者であったり、ショートステイ滞在者の新規顧客が非常に増えており、またリピーターが安定していること等々を踏まえると、指定管理者として三年目を迎えるが、施設の休館等がなければ、今までで一番の来館者数になる状況である。また先ほど企業の話もあったが、私どもはスポーツメーカーでもあるので、契約選手や提携をしているアスリート等を組み込んだ事業の計画を2月3月に進めてはいるが、やはり施設運営の目的は、日々の練習の成果を発表する場であったり、精神であったり、健康な体を促進する場、様々な交流の場というところの環境づくりが大きいと思っており、そのあたりをしっかりと打ち出しながら、安全安心で利用できる施設を目指していきたいと思っている。また先ほど調査のまとめのなかで、「重点的に取り組むこと」として「施設・設備の整備・充実」といったところが54%と出ていた。私どもは、区や都の具体的な方針や施策を現場サイドで実行していく部隊であるため、しっかりと利用者様の意見を取込みながら共有して、皆様が満足できる施設運営を目指して対応をしていきたい。

区中学校PTA協議会

新宿区は、コズミックスポーツセンターや新宿スポーツセンターをはじめ、公園も、例えば宮田橋公

園にちゃんと柵があって、野球やバスケットボールができたり等、環境が恵まれていると思う。このような今ある資源について、区中Pのなかでも知らないという声が多く、周知が徹底されていないと感じた。教育委員会では毎年周知していると言うが、実際にお知らせを配布していても、それがちゃんと徹底されることが大切だと思った。今の新宿スポーツセンターの利用者数が増えているということは、やはり魅力があるのだと思うので、ぜひとも今ある資源の情報を流してほしい。中学校の校内に、区内で使えるスポーツ施設の案内など、子どもが目を引くようなポスターを提示していただくのも良いと思う。ホームページとかでも良いので、広く周知ができるのもっとありがたいなと思った。またこの前、デフリンピックの選手が中学校に来て、二学年の生徒が実際に体験させていただいた。聴覚障害者の方に来ていただいて、聴覚をふさいだ世界を体験することができ、とてもよい施策だと思った。民間の力の話があったが、子どもたちにとっても企業はこういうスポーツの協力もしているんだという気づきもできると思うので、是非、いろいろな場面で子どもたちを取り入れながら、スポーツ環境ももっと普遍的に幅広く拡張性を持って取り組んでいただきたいと思います。

区小学校 PTA 連合会

前回の会議以降の小P連の活動について報告する。昨年8月26日に、小P連の夢授業と称して、優待でサッカーの親子観戦を開催した。FC東京VSヴィッセル神戸の試合で新国立競技場の方で行われた。また、11月18日・19日でバレーボール大会を開催した。16校が参加したが、単独校の参加が7校、あとは合同チームだった。最近では、合同チームが増えており、優勝も合同チームだった。その後11月23日ソフトボール大会では、8チームが参加した。落合グラウンドで午前中は、子ども向けのソフトボール教室を行い、午後ソフトボール大会を開催した。今年は1月21日には、14校17チームが参加して卓球大会が開催された。いずれもで、運営については今までは輪番制でやっていたが、自分の学校が参加しない場合も運営をしなくてはならず、負担感を軽減するために参加する学校に運営面もやっていただくことになったが、なかなか楽しむ側と運営する側というのは、一致しないところがあり、本部の執行部の方々が、運営面では負担がかかってくるというような状況がある。

区レクリエーション協会

チラシ「パラスポーツ・レクリエーションひろば」は、東京都の事業で、新宿区レクリエーション協会が受託して実施している。今までも障害のある方もない方も一緒に参加ができる事業はやってきたが、参加は申込み制で、事前に障害の種類なども把握したうえで事業を行っていた。今年からは、もっと参加しやすくなるよう、申込み不要、出入り自由という方式で3回開催した。種目は、新宿レクリエーション協会に加盟している団体の方にもご協力いただき、今年はフォークダンスを追加で行った。フォークダンスには障害がある方もない方も入り、車椅子の場合は車椅子のフォークダンス。それ以外で普段あんまり体を動かしてない方が来た場合は、誰でもできる、歩くようなフォークダンス。このように柔軟に対応していただくようお願いをした。音楽につられて、参加者は多かったと思う。また、ボッチャに関しては、北支援学校は肢体不自由の方の学校なので、寝ている状態の車椅子の方もいらっやっつて、ランプという滑り台の機器も使えず、いろいろ試したところ、足でボールを押して転がす方法を発見することができた。その他、上手に自分で投げる子がおり、話を聞くと頻繁にボッチャをやっており、機会があれば毎日でもやりたいと思っているようであった。クラフトでは、コマとかいろんなものを作

り、回したりして、やはり遊びながら体を使っていた。また、新宿レクリエーション協会では、レクフォーラムという事業をやっている。最初は、私たちは障害を理解するというスタンスでやっていたが、最近是一緒に遊ぶという方式になっている。去年の11月には「クリアソン新宿の人が来て、一緒にサッカー、ゲームをやらせてもらったりすると、子どもたちは元気になる。」という話を、障害者団体連絡協議会の藤原さんに講演していただいた。クリアソン新宿代表の丸山さんにも講演をしていただき、「自分たちが地域でいろんな方と交流したいからやっている。」というお話をいただいた。講演を聞いて、こういった両者を結びつけていくことがいかに大事であると実感し、事業を行っているところである。

学識経験者

私が仕事で関わったこととして、厚生労働省から「健康づくりのための身体活動・運動ガイド」が、10年ぶりに改定され公開された。スポーツを含む、どれぐらい体が動かせばいいのかという目安を示させていただいた。これがスポーツ推進に寄与することを願うと同時に、皆さま方にももし興味があれば見ていただければと考えている。改定の大きな部分の一つは、厚生労働省から出ていたため、今までは子どもに関することについては出ていなかったが、そこに触れたということが一点。それからもう一つ、筋トレをしっかりやっというのをガイドラインに明確に含ませていただいた。これはスポーツの部分の関わりだけではなく、高齢者の方々にもただ歩くのではなく、筋肉を鍛えることをしっかり理解していただく、ということが含まれたこと。それからもう一つ、スポーツやっいても、あとずっと座ってばかりではいけないということが含まれた。大きくはこの三点がこれまでになかった内容となる。それから正確に、子ども、成人、高齢者、病気を持った人、働く人といったようにいろんな形で分けて、そのエビデンスファクトの紹介をして推奨事項を述べている。これらの内容は、今回のこのスポーツ環境整備方針にも関係してくるかと思うので、発言させていただいた。おそらく厚労省の方が健康づくり関係の部署には、通達として既に出ているかと思うが、これからアクティブガイドという形で、もう少し国民向けに、簡便なものを作っていきたいと考えているので、興味があれば見ていただければと思う。引き続きまた何かあれば報告させていただきたい。

イ 行政からの報告

教育支援課 資料6

今年度の部活動運営支援についてご説明する。令和元年度から部活動指導員を配置してきたが、指導員の安定的な確保や、継続的に配置することが難しい時期があった。そういった中で、昨年度に区の民間提案制度の活用により、部活動の支援について民間事業者から提案をいただき、その提案に基づき、今年度4月から一部民間委託化を行っている。令和4年度は11名の配置だったが、今年度は33部活動に配置となっている。令和6年度はさらに配置数を増やすよう取り組んでいる。目安としては、今、新宿区立中学校の部活動の総数120程度に対し、約半数程度を目標に配置していきたいと考えている。種目について特徴的なのは、愛日小学校に「(仮称)ゆる部活」というものが入っている。これは、いわゆるストイックな部活ではなく、運動の得意・不得意に関係なく、児童・生徒の居場所という位置づけでの部活となる。この民間提案制度を活用した事業については、行政管理課という部署が中心となって昨年10月の段階で中間評価を行った。児童・生徒については、部活動指導員を入れたことで、部活動の質

が上がった、参加意欲が上昇したと感じている方が 87%。顧問教員からは、校務に充てる時間が増えた、休暇を取る機会が増えた、部活動の負担が減ったと感じている方が 95%。このように、概ね肯定的なご意見をいただいたことから一定の成果が得られていると認識している。評価委員のご意見で、主なものとしては、「教員の働き方改革が進捗していることが客観的に把握できる指標の設定を望む」や「教員の働き方改革を推進していく中で、どうしても部活動に一生懸命になる先生がいらっしゃるのでは、働きすぎにならないよう、部活動運営支援事業を活用し、教員のライフワークバランスに配慮すること」などのご指摘をいただいた。

教育調整課長

区が直接関わっている内容ではないが、スポーツ環境会議ということで、教育委員会の方から情報提供をさせていただく。すでに報道などをご存知の方も多いと思うが、メジャーリーガーの大谷翔平選手が全国の小学校にグローブ各 3 個を寄付するという活動をしている。1月 17 日に教育委員会にまとめてグローブが届き、翌週から、各学校にすでに配布をさせていただいた。こちらのグローブに大谷翔平選手の方からメッセージが付いていたので、この機会にご紹介する。

「この 3 つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はそのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは野球こそが私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。野球しようぜ。大谷翔平」

生涯学習スポーツ課長

本日チラシを配布しているが、ブラインドサッカーの体験会を開催する。今回のイベントは、クリアソン新宿からの派遣職員もおり、新宿区に事務所がある、日本ブラインドサッカー協会の協力により実施するイベントである。2月 18 日 10 時から 12 時、新宿コズミックスポーツセンター大体育室で、ブラインドサッカー選手による講演と体験会を予定している。実際のブラインドサッカーは、かなり激しく迫力のある競技ではあるが、体験会では子どもたちも参加するので、ケガのないように安全管理をしながら行う。なかなか体験できない貴重な機会なので、是非、子どもだけでなく大人もご参加いただければと思っている。

【質疑応答】

区中学校 PTA 協議会

部活動のことで、事業評価委員の有識者 3 名、区職員 5 名はどのような方がされたのか教えてほしい。また、子どもたちがその新しい制度で民間の方が入ってきたことによる心の部分のケアやコミュニケーションがとれているかについて、保護者としてはとても気になっているが、そういったところも踏まえての調査をされたのかお聞きしたい。

教育支援課

区職員は、行政管理課から委嘱された部課長級の職員。外部の有識者の方は、公民連携に精通されて

いる方や弁護士の方々に、評価をしていただいている。

評価の中身については、まず私どもから自己評価を提出させていただき、その自己評価に対して評価委員の方々がしっかりそれを分析し、総合的に判断するような形で評価をいただいた。

区体育協会

部活動の支援事業については、これは企業に一括して委託し、その企業が指導員を選んで学校に配置するという事か。

部活動の時間帯にどのような人が指導員として出られるのかについて調べたことがあるが、ほとんどが学生さんに依頼する傾向であった。その企業がきちんと指導をして、部活動の指導員としてやるように教育はすると思うが、おそらく学生さんだとまだ 20 歳前後の方が、部活の技術を教えるだけなら良いが、例えば引率で試合会場に連れて行くなどの非常に責任の重いところも担わなければならないこともあると思う。そのあたりについて、区としてはどのように対応しているのか教えてほしい。

教育支援課

まずプロポーザル方式に基づいて一社選定をし、その選定した一社と教育委員会とで委託契約を締結し、その専門事業者から部活動指導員を配置していただく仕組みになっている。

指導員に学生も若干いるが、まず採用時に十数時間の研修を受けていただいております、その中には生徒の生活指導的な内容も研修の項目として入っている。また年に一回、教育委員会主催の研修会等も行っている。そのため、いわゆる技術指導だけではなく、学校の一員として子どもたちを指導するという立場であることも、しっかりと勉強していただいている。また、個別に配置している指導員の上に、ヘッドコーチという統括的な指導者を民間事業者の方から配置している。ヘッドコーチ 1 人で 3~4 校を担当し、もし、個別に配置した指導者で対応できない場合については、ヘッドコーチ、もしくはそれでも対応できない場合は、本社で対応するという事で、指導員 1 人だけに責任を負わずような形ではなく、ヘッドコーチや本社、教育委員会も含めて、全体でバックアップするような形で運営している。

区体育協会

本来であれば、地元で顔の見える方が指導員として来ていただくのが一番だということで、区の方も最初動いていたが、なかなかそれが集まらず、おそらく民間提案制度に則って企業にお願いしたというところだと思う。子どもたちに何かあるというのが一番の心配事なので、新宿区もしっかりバックアップしていただくようお願いしたい。

区中学校 PTA 協議会

事業評価の内容については、どこかに公表されているか。私たち保護者も監査的な感じで見させていただきながら、子どもたちの安全を守っていきたくと思うので、お願いしたい。

教育支援課

公表については、確認する。

(後日確認) 10 月に実施した評価は中間評価であるため、公表はされていない。

来年度に事後評価を実施する予定。公表するかについては未定。

(6)「その他」 <次第6>

特になし。

(7) 閉会

事務局から連絡

来年度のスポーツ環境会議は、5月頃、9月頃、1月頃の3回開催予定。次回は、スポーツ環境整備方針の骨子案を報告させていただく予定。

各団体については、来年度のスポーツ環境会議委員の推薦依頼を2月上旬に送付するので、対応をお願いしたい。5月の開催通知は、詳細が決まり次第、推薦された委員に改めて通知させていただく。